

【第 99 回対策本部会議】 8 月 31 日

健康福祉部長／25 日からの感染者数は、今週に入り 2 桁の日もあるが、1 週間で 582 人とまだまだ多い。第 4 波の最多感染者数は 75 人、本日は 81 人と厳しい状況は続いている。

入院患者は 186 人で病床使用率が 47.8%。うち、重症者は 2 人、重症者用の使用率は 4.2%。ホテル療養は 259 人で使用率は 52.3%。病床使用率は若干減っているが、数値は 50%前後と、医療現場にとっては負担が大きい。自宅療養者は 287 人、多いときの約半数に減った。

人口 10 万人当たりの 1 週間の感染者数

東京都は、最近減少傾向で 186 人。福岡県も減少に転じていて 127 人。九州各県も同様の傾向。佐賀県は、18 日に医療機関を守るための非常警戒措置を講じ、その 5 日後から急激な減少傾向がみられる。

しかし、デルタ株は感染スピードが早いので、一人ひとりが厳格な感染予防策を講じる必要がある。

知事／私からポイントを説明する。

これまでの累計の感染者数は 5,000 人を超え、8 月の感染者数は 2,392 人。この 1 か月の感染者数が、全体の 46%を占める。感染者数が 3 桁になる日もあり、数字に麻痺しているかもしれないが、本日の 81 人という数字は、第 5 波のときにはなかった大きな数字。医療機関も県職員も対応に追われている。デルタ株への対策は、従来の方法と様変わりしているという共通認識を持っておきたい。

佐賀県における人口 10 万人あたりの感染者数(直近 1 週間 1 日あたり)

8 月 13 日からのグラフ。このころ、旧唐津市の感染者数が多いなど気づき注目していた。それから、数字が増えていき 18 日に非常警戒措置を発出した。その後、東京都の数値を追い越し、このままではいけないと 24 日にまん延防止等重点措置を要請した。

現在、唐津市は急激に下がっている。対策した結果が出ているのだろう。それでも、まだ佐賀県全体の倍ぐらいの数字。全県一丸となって数字を下げるように取り組んでいく。

年代別 10 万人当たりの佐賀県内陽性者数(1 週間平均 1 日あたり)

各年代の人口に、陽性者が占める割合をグラフ化した。第 4 波では、20 代の感染者数が多かった。ゴールデンウィークに他県を訪れたことから感染が広がった。第 5 波は、10 代の感染者が多い。さらに調べると、高校生の感染者数が多い。

具体的な数でいうと、第 4 波が 22 人、第 5 波は 114 人。うち、直近 1 週間では 64 人。感染のきっかけは、体育祭の練習、部活の合宿といったもので、一度に感染者数が多くなる。高校生は、通学や部活動での行動範囲が広い。この 1 週間の状況から、高校生は感染予防に努め

てほしい。明日から新学期が始まる。感染対策の徹底を。

9月1日から、中等症、軽症の専用病床を54床増床し、434床になる予定。さらに、軽症の臨時医療施設50床を白石町に準備中。宿泊療養施設も佐賀市と伊万里市に、各1か所のホテルを確保する予定。スタッフを含めた準備には、もう少し時間がかかるが、今後の第6波、第7波に備え体制を強化した。

「プロジェクトM」では、まず保健監が感染者を診断し、療養方針を決める。これがとても大事なこと。まだ、自宅療養をせざるを得ない状況だが、県庁11階に自宅療養支援センターを作り、重症化しないよう一人ひとりにていねいに対応している。

教育長／第5波では、高校生の感染が増加している。最大の危機感を持って臨む。

9月1日から本格的に2学期が始動する。それに向けて、27日に県立、国立、私立の全校長と市町の教育長が集まり、現在の感染状況の厳しさと今後の危機感について、情報を共有した。

夏休みに高校生の感染が増えた要因は、部活動のクラスターが発生したこと。現在、部活動を停止している。また、体育祭の集団での声出しや文化祭の合唱、身体接触などの感染リスクが高い活動は行わない。リーダー練習は、感染対策を前提に実施可能と考えている。昨日、発生したクラスターは、体育祭の練習で感染したと想定されるため、2学期が始まるにあたり、対策を徹底する。

県教育委員会は、不織布マスクの使用を強く推奨する。そのため、県立、市町立、国立、私立学校分を一括して調達し、学校現場に届ける。特に、小学校では不織布マスクの使用割合が少ない。子供用の不織布マスクも含めて、まん延防止等重点措置の期間中に使える量をできるだけ早く届ける。

陽性者確認後の対応を迅速にし、学校での感染拡大を防ぐ。感染が確認された場合、直ちに一旦学校を閉鎖し、感染・接触状況を確認した上で再開する。必要に応じ、学級閉鎖、学年閉鎖、学校閉鎖を行っていく。このような機動的な対策の打ち方を27日の会議で意識共有した。学校現場と協力しながら、危機感をもって当たっていく。

プロジェクトM「臨時の医療施設」を準備中（白石町）

新型コロナウイルス対応医療提供体制強化本部事務局長／臨時の医療施設は、病床数50床、対象は軽症者。入院とホテル療養の間を想定している。

現在、医師、看護師を募集中。週に1回や2回でも協力をお願いしたい。医師は医務課の医療人材政策室、看護師は医務課プロジェクトMに問い合わせを。

現在、ホテル利用率は50%台半ばになり、ホテルの余裕を確保できる状況になった。家庭内の感染防止と重症化予防の観点から、ホテル療養を勧めても自宅療養を希望する人がいる。それぞれの状態を見ながらホテル療養が適切だと判断しているため、ご家族やご自分のためにも保健所の指示に従っていただきたい。

佐賀県へのワクチンの配分

ワクチン接種調整チームリーダー／国から市町に配分されているファイザーワクチンが、国の方針の変更で、8月30日分から急激に減らされた。この影響で、接種の予約が取れない状況になった。国に対し、早期のワクチン配布を訴え続けてきた結果、9月13日の週の第14クールは、3万7,000回分の追加を確保できた。

市町接種の支援のため、戦略的・機動的に行っている県民ホールの接種会場に、4,000人分のモデルナワクチンが追加された。また、唐津市で新たに設置される大規模接種会場に2,000人分が届けられる。

これにより、県の接種会場では、9月11日から週当たりの接種回数を1,500回に拡大。期間は、1回目が9月26日まで、2回目は10月24日まで延長する。現在、土曜日に500回だが、土曜日、日曜日に各750回分の接種ができるようになった。対象者は、65歳以上の高齢者、介護施設従事者、保育所、教職員、警察職員。8月28日からは、高校3年生、妊婦とパートナーも接種の対象に追加している。

先週の土曜日は、高校3年生232人、妊婦とそのパートナー5人が接種をした。高校3年生は学校、妊婦はかかりつけの産婦人科を通じて申し込みをしてほしい。

知事／直近の感染者2,000人のうち、ワクチンを2回接種した人は6%にとどまっている。亡くなった人、重症化した人はいない。ワクチンを接種しても感染することはあるが、重症化しづらいという傾向があるため、接種を推奨している。

佐賀県では、2回接種した人が5割を超えた。現在、感染が多いのは、20代、10代。この年代の人への接種を広めることが、今後感染を抑えていくための大きな要因になる。

知事会で訴えたためか、国からワクチンの配分を配慮してもらった。2回接種済み人を増やしていきたい。

不安な自宅療養者に、多くの医師、看護師が連絡や巡回をしていただき感謝している。さまざまな現場の皆様、保健所、市町の職員、県職員、感染症対策に取り組む県民の皆様に心から感謝する。佐賀県は慈しみの県。エールを送り合い続ける県でありたい。誹謗中傷などないように改めてお願いする。

今後とも、佐賀県は真っすぐに県民の命に向かい合い対策をしていく。チーム佐賀・オール佐賀で1つになって乗り越えたい。